

御茶ノ水子ども医療総合ネットワークからの報告

（注（ ）内は実際の年報には記載されません。）

（病院名：）川口市立医療センター

（科名：）新生児集中治療科

（執筆者の役職：）部長

（執筆者の氏名：）箕面崎 至宏

（冒頭のメッセージ）

赤ちゃん達の未来をみんなで守っていこう！

（学会の認定施設）

日本周産期・新生児医学会 新生児研修基幹施設

1. 病院概要

赤羽から荒川を渡ると、もうそこは川口市。埼玉都民がほとんどのベッドタウンです。川口市立医療センターは、川口市のほぼ中央にあり、グリーンセンターに隣接し、緑あふれる場所に立地しています。地域医療支援病院、埼玉県南部地域の基幹災害医療センターとして、診療科数 17 科 539 床を有し、地域の基幹病院としてプライマリ・ケアから三次救命救急、高度専門医療まで広範な医療を展開しています。新生児集中治療科は、埼玉県南東部をカバーする地域周産期母子医療センター（産科 30 床、NICU30 床：NICU 加算 9 床+GCU21 床）の NICU 部門として診療を行っています。

2. 科の特徴

入院

当院産科は、常勤 5 名体制（周産期産科専門医 3 名）、非常勤医師（慈恵）で、地域周産期母子医療センター（産科病棟 30 床）を運営しています。週 1 回産科新生児科カンファランスを持っています。県内 2 つの総合周産期センターと役割分担しながら活動をしています。しかし、当周産期センター担当の埼玉県南東部地域では、戸田中央産院、永井マザーズホスピタルといった年間 1000 分娩以上規模の産科施設や、様々な公的病院の産科を受け持っており、超早産の切迫早産、前期破水などの母体搬送受け入れ、妊娠高血圧症候群、甲状腺機能異常などの合併症妊娠、多胎（双胎、品胎）妊娠などの外来紹介は、引きもきらず依頼があります。2019 年度は分娩数 616、多胎 39、緊急母体搬送 85 でした。また、在胎 35 週以上で出生体重 2000～2500 g の late preterm の低出生体重児であっても、呼吸循環血糖などが落ち着いていれば、当科管理の下、産科病棟で母児同室を行っています。2019 年度のその数は 101 名でした。また、重症児の出産が予想される場合、新生児科医が両親に対し prenatal visit を行っています。

新生児集中治療科（NICU・GCU 病棟）への入院は 233 名、院内出生 145 名（うち母体搬送からの入院 65 名）、院外出生 82 名、極低出生体重児は 47 名（超低出生体重児 15 名）でした。挿管人工呼吸管理 64 名、全身麻酔手術症例は 9 例（新生児症例 3 名）、眼科光凝固術

3 例、気管支ファイバー63 例(うち小児病棟 25 例、外来 8 例)、在宅医療移行 9 名(在宅人工換気 6 名)、死亡退院 1 名(剖検 0 例)でした。

小児科循環器、内分泌医なども併診に来棟され、眼科眼底検査回診や整形外科医、理学療法士の回診もあります。

2020 年 2 月末から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、病院全体の面会は中止となるなか、母児愛着形成、母乳育児支援などの観点から、NICU では細々と面会を続けておりました。しかし、4 月に緊急事態宣言が出るにあたり、面会を中止せざるを得なくなり、次善の策として Web 経由での、オンライン遠隔面会へ変更しました。幸いご家族からは好評で、5 月末には、面会再開を行うことができ、母乳栄養率の低下も認められませんでした。しかし、今後の第 2、3 波が恐ろしいところです。



外来

当科を退院した児のフォローアップ外来を月・水・金の午後行っています。極低出生体重児の学齢期までのフォロー、在宅医療児の支援、母乳育児支援などを行っています。気管切開、在宅酸素、在宅人工換気などの在宅医療を必要とする患者の増加もあり、小児科と密接な連携のもと、診療を行っています。また、気管支ファイバー外来も行っております。発達評価や心理面でのフォローを臨床心理士 3 名にお願いしています。

3. スタッフ

スタッフは常勤医 8 名(うち当直オンコール免除 1 名、産休育休 1 名)、特別研修医(後期研修医) 2 名で、加えて非常勤 1 名(週 4 日勤務)、2 名(週 1 日)です。防衛医大や埼玉民医連、地域医療振興協会などから、不定期に短期長期の研修派遣があります。その他発達評価を行う非常勤臨床心理士 3 名です。

4. 教育・研修の特色

当科は日本周産期・新生児医学会の新生児研修基幹施設に認定されており、2019 年度には当科出身の周産期(新生児)専門医は 9 名となり、各施設で活躍中です。また現在 3 名が研修中です。

当科では、小児科医として必要な正常新生児の管理から最重症児の呼吸循環栄養管理まで、幅広く研修することができます。また、小児外科、脳神経外科、形成外科などとの連携において、新生児外科疾患の術前術後管理を研修することも可能です。循環器外科疾患に関

しては、小児循環器医の指導の下、診断、急性期の治療を開始し、stabilize 後に循環器専門施設（榊原記念病院、県立小児医療センターなど）へ搬送しています。

また、東京医科歯科大、防衛医大、筑波大などの医学生実習、その他埼玉県立大学、川口市立看護専門学校などの看護助産学生実習などの研修指導教育に協力しています。

5. メッセージ

新型コロナウイルス感染症が瞬く間に全世界に広がっています。テレビに映る、防護服に N95 マスク、フェイスシールドという姿は、本当にショッキングです。当院でも軽症、中等症の新型コロナウイルス感染患者の受け入れを行い、感染妊婦への対応も迫られています。面会縮小、中止の影響で、母児関係確立、母乳栄養などへの影響は計り知れません。オンライン面会なども試みていますが、、、。しかし、他科の入院患者数は軒並み減少しているなか、新生児集中治療科には、今日も入院依頼の電話がかかっています。

6. 業績など

忙しい業務と並行しながら、論文掲載は、医学雑誌 2 編、埼玉医学会雑誌 4 編、学術講演会 1 回、学会発表は、全国学会 5 題、埼玉地方会 4 題など発表しました。

2019 年度スタッフ紹介 ○小児科専門医 ＊医局外

氏 名	身分	卒業年	専門領域	資格・学会役職など
○箕面崎 至宏	部長	平成元	新生児	小児科指導医、新生児専門医・指導医、小児科学会埼玉地方会（理事）、日本新生児成育医学会（評議員）、日本 SIDS・

				乳幼児突然死予防学会（評議員）、 NCPR インストラクター
○市川 知則	副部長	平成 7	新生児	小児科指導医、新生児専門医・指導医
○森丘 千夏子	副部長	平成 13	新生児	新生児専門医、IBCLC、NCPR イン ストラクター
○青木 龍	医長	平成 19	新生児	小児科指導医、新生児専門医、NCPR インストラクター
○早田 茉莉		平成 22	新生児	IBCLC、NCPR インストラクター
○宮原 宏幸		平成 24	新生児	
○勝屋 恭子		平成 24	新生児	
○野口 優輔		平成 25	新生児	NCPR インストラクター
野村 知弘		平成 26	循環器	
深間 英輔		平成 27	小児科一般	

卒後 3 年目以上の医師のみ掲載

へ